

研究プロジェクト「スンマとシステムー知のあり方ー」
Research Project: Summa and System

実施期間： 2007～2009 年度

Term of the Project: 2007-2009 fiscal years

研究代表者： 亀本 洋 京都大学大学院法学研究科教授

Project Leader: Dr. Hiroshi KAMEMOTO, Project Representative on the IIAS Planning Board;
Professor, Graduate School of Law, Kyoto University

研究目的：

西洋の知らないし学のあり方を思想史的にみると、スンマ(summa)とシステム(system)という 2 種類に分けられる。

スンマとは、「神学大全」における「大全」に相当し、数多くの個別ケースへの対処を基礎として、それらを多少なりとも系統的に「要約」(summary)し、整理するものである。これは、ローマ法解釈学やキリスト教神学の「体系化」の方法として代表的かつ第一のものであった。今日でも、判例法主義に立つコモン・ロー諸国の法実務において、用いられている実用的な知的方法である。「帰納的方法」と呼んでも読んでもよい。

しかし、このようなスンマによる知の体系化は、実験と観察を基礎に数学的定式化によって知的探求の成果を表現する自然科学の興隆とともに、学問の体系化の方法として、いくつかの法則または普遍命題からの演繹的体系化によるが有力となり、非自然科学も、やがてそれに倣うようになった。これをシステムによる体系化と呼ぶことができよう。

本研究会では、哲学、社会学、法学、経済学、政治学等、主として人文社会科学の諸分野を、学問知のあり方に関するこの二つの方法の観点から、教科書の編成方式なども取り上げつつ、検討してみたい。

Objectives:

We think summa and system are typical ways of organizing knowledge in the western academic thought.

Summa is consisted of two parts, that is, casuistic case-analysis and summarizing its achievements in the form of doctrines, principles or rules. This has been a familiar method of systematization in practical traditional disciplines, dogmatics of law and theology in particular.

What we call system is a method of organizing scientific knowledge in the form of universal propositions that are related with each other in deductive way. System has almost replaced Summa as natural science has predominated in academic world in general including humanities and social sciences.

We shall research academic sphere, particularly humanities and/or social sciences such as philosophy, sociology, law, economics and politics in the viewpoint of summa and system in the sense above.

キーワード：スンマ、システム、教科書

Key Word：summa, system, text book

参加研究者リスト： 15 名（◎研究代表者）

氏名	職名等
◎亀本 洋	京都大学大学院法学研究科教授
浅野 有紀	近畿大学法科大学院教授（2008年度より参加）
植木 一幹	関西学院大学法学部教授（2008年度より参加）
大森 秀臣	岡山大学法学部教授（2008年度より参加）
桂木 隆夫	学習院大学法学部教授
川濱 昇	京都大学大学院法学研究科教授
田中 成明	国際高等研究所副所長／関西学院大学大学院司法研究科教授／京都大学名誉教授
土井 崇弘	中京大学法学部准教授（2008年度より参加）
中山 竜一	大阪大学大学院法学研究科教授
那須 耕介	摂南大学法学部准教授（2008年度より参加）
服部 高宏	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
平野 仁彦	立命館大学法学部・法科大学院教授
山本 敬三	京都大学大学院法学研究科教授
若松 良樹	成城大学法学部教授（2008年度より参加）

研究活動実績：

2007年度：

スンマとシステムという概念が、分野によって、たとえば自然科学と人文科学と社会科学の間で、また、自然科学のなかでも物理学と生物学では異なるのではないか、という点につき、理解が深まった。

研究会開催実績：

第1回： 2008年3月15日（於：高等研）

話題提供者：1名

松尾 陽 京都大学大学院法学研究科博士後期課程

2008年度：

カントにおけるスンマとシステム、権利概念のゲーム論的再構成、法的思考の弁証的論理、リベラル優生学の思想、ケルゼンの純粹法学について検討した。各分野における思考の特徴についてある程度明らかにした。

研究会開催実績：

第1回： 2008年12月19日～20日（於：高等研）

第2回： 2009年3月5日～6日（於：高等研）

話題提供者：6名

石川 文康 国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
伊藤 泰 拓殖大学政経学部非常勤講師
近藤 圭介 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生
桜井 徹 神戸大学大学院国際文化学研究科教授
高橋 文彦 明治学院大学法学部教授
竹下 賢 関西大学法科大学院教授

その他の参加者： 4名

川瀬 貴之 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生
佐橋 謙一 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生
中林 良純 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生
松尾 陽 京都大学大学院法学研究科研究員

2009年度：

第一に、「システム」の方法をとるものの一種として、地球物理学をはじめとする「歴史的（自然）科学」の方法を取り上げ、それが、歴史的自然現象を対象とすることから、通常の物理諸科学の方法といくつかの点で異なることが明らかとなった。

第二に、スンマ的方法をとるものの一種として、歴史学の一分野として、ユダヤ学とローマ法学を取り上げた。

第三に、スンマ的教育方法の実践例として、ロースクールにおける法学教育を取り上げるとともに、法学におけるシステム的知識の一例として、行動法経済学を取り上げ検討した。

研究会開催実績：

第1回 2009年9月25日～26日 (於：高等研)
第2回 2010年1月8日～9日 (於：高等研)

話題提供者：5名

鳥海 光弘 国際高等研究所企画委員／東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
手島 熱矢 国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
林 信夫 京都大学大学院法学研究科長・教授
山田 八千子 中央大学法科大学院教授
山本 顯治 神戸大学大学院法学研究科教授

その他の参加者：7名

伊藤 泰 拓殖大学政経学部非常勤講師
川瀬 貴之 京都大学大学院法学研究科博士後期課程
近藤 圭介 京都大学大学院法学研究科博士後期課程
佐橋 謙一 京都大学大学院法学研究科
高橋 文彦 明治学院大学法学部教授
中林 良純 京都大学大学院法学研究科
松尾 陽 京都大学大学院法学研究科助教

Achievement:

2007 fiscal year:

We have researched the differences and similarities of ideas of Summa and System in academic spheres. The line between these ideas can be drawn differently in each area. Textbooks of economics, law, biology, physics and logic were discussed.

2008 fiscal year:

We examined summa and system in Kant, and discussed about concept of right in terms of game-theory, legal thinking in terms of dialectic logic, H. Kelsen's pure theory of law, and liberal eugenics. We have got a so clear image of thinking in various academic disciplines.

2009 fiscal year:

We have examined, first of all, geophysics as a kind of historical natural sciences and its characteristic method, secondly, Judaism research and Roman law as belonging to history, and finally, education in law school and application of behavioral law and economics in law, the former as an example of summa and the latter as one of system.

研究活動総括 :

スンマとシステムという概念は、学問上の発見や探索というよりも、その成果のまとめ方にかかわる概念である。それゆえ、すでにある知見の表現および論述の方法に主としてかかわる。にもかかわらず、それは新たな発見や探求の方法にも少なからずかかわるもののように思われる。

とりわけ、そこで用いられる「論理」が多少なりとも異なる。システムに則る自然科学では、前提から結論への移行が必然的な単調論理が用いられるのに対して、法学など人文系の学問では、前提から結論への移行が必然的ではない非単調論理が用いられる。その典型は、主張、抗弁、それに対する抗弁と延々と続く法廷弁論である。それぞれの局面で提出された命題は、例外のない命題ではないが、さしあたりそれで十分に用を果たすこともまた事実である。

その関係もあり、人文系の学問では、研究の基礎となるべき大前提そのものが専門家の間で争われることが多い。自然科学の通常の営みにおいては、いくつかの前提を共有した上で、それぞれの研究が遂行される。もっとも、法学などにおいても、それぞれの分野でドグマとされているものがあり、それを通常は疑わないという前提で研究が遂行されることも多いから、相対的な違いといえないこともない。

人文系の学問が非単調論理を用いるということは、結論がつねにオープンになっているということであり、それが常に個別事例を念頭におくこととも符合する。ということは、教科書における成果の叙述と探求のプロセスとが容易に区別できないということも意味する。人文科学の分野で、経済学や自然科学一般におけるような教科書の標準化が難しい理由の一つは、この点にあるように思われる。

「教科書」は、すべての学問分野において、教育および研究者の育成のために重要なものである。どちらかというとシステム的理解が優勢な今日において、以上のような違いを認識することは、「新たな学術の目を見つけ、学術の目を育てる」ことにとっても大事だと考える。

Whole Achievement:

The concepts of summa and system are more those concerning how to organize knowledge acquired in each academic discipline rather than those concerning how to discover and explore.

They nevertheless, we think, have something to do with the methods of investigation.

The logics used in system and summa are different from one another. System applies monotonic logic, in which roughly speaking reasoning from premises to a conclusion is necessary. Summa by contrast uses non-monotonic or dialectic logic, in which the conclusion of reasoning is not necessarily compelling but open, the model of which is debate in court, where the plaintiff claims her rights and the defendant refutes her and the former re-refutes and so on. In those disciplines belonging to humanities non-monotonic logic is usually used. Propositions appeared in those fields entail exceptions, even if they were formulated as general types.

Controversies about basic propositions in each subject are more rendered in humanities than in natural sciences. In the latter there is normally professional consensus. Though this is a relative difference between both, for, in law for example, there are a number of dogmas that any jurist must not in principle doubt.

Openness of conclusion in humanist sciences coincides with the fact that researchers in such fields consider problems in terms of particular cases. As a result description in a text-book of achievements in each humanist science cannot be easily differentiated from its process of exploration. This is, we think, one of causes that have made difficult standardization of text-book in such a kind of subjects.

Text-books are important for education and fostering future researchers in any subject. It deserves much attention from the point of view which our institute takes to find and plant new academic seeds, we think, to recognize those differences mentioned above between system and summa, in view of the current predominance of systemic thinking over summa-thinking.

研究成果報告書 :

2010年12月出版予定

担当：田中副所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「スンマとシステム」
2007年度第1回研究会プログラム

開催日時：2008年3月15日（土）10:00～17:30

開催場所：国際高等研究所 セミナー1（1F）

研究代表者：亀本 洋 国際高等研究所企画委員
京都大学大学院法学研究科教授
担当所長・副所長：北川 善太郎 副所長

出席者：(11人)

研究代表者 **	亀本 洋	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
参加研究者	田中 成明	関西学院大学大学院司法研究科教授
(9人)	服部 高宏	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 教授
	平野 仁彦	立命館大学法学部・法科大学院教授
	浅野 有紀	近畿大学法科大学院法務研究科教授
	大森 秀臣	岡山大学大学院社会文化科学研究科・法学部准教授
	北川 善太郎	国際高等研究所副所長
	那須 耕介	摂南大学法学部准教授
	若松 良樹	成城大学法学部教授

話題提供者 松尾 陽 京都大学大学院法学研究科博士後期課程
(ゲストスピーカー)
(1人)

** : スピーカー

プログラム

3月15日（土）

10:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：亀本 洋 国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
演題「スンマとシステムについて」

12:30 昼食〔コミュニティホール〕

13:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：松尾 陽 京都大学大学院法学研究科博士後期課程
演題「C.サンスティーンの『不完全に理論化された合意』の意味と
その論拠に関する一考察について」

15:30～17:30 今後の研究会開催に関する打合せ

配布資料（公開不可）

- ・松尾 博「C.サンスティーンの『不完全に理論化された合意』の意味と
その論拠に関する一考察について」

国際高等研究所
研究プロジェクト「スンマとシステム」
2008年度第1回研究会（通算第2回）プログラム

開催日時：2008年12月19日（金）14:30～17:30
12月20日（土）10:00～17:00

開催場所：国際高等研究所 216会議室

研究代表者：亀本 洋 国際高等研究所企画委員
京都大学大学院法学研究科教授
担当所長・副所長：北川 善太郎 副所長

出席者：(14人)

研究代表者	** 亀本 洋	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
参加研究者	浅野 有紀	近畿大学法科大学院教授
(6人)	北川 善太郎	国際高等研究所副所長
	田中 成明	関西学院大学大学院司法研究科教授
	服部 高宏	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	平野 仁彦	立命館大学法学部教授
** : スピーカー		

話題提供者	石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
(ゲストスピーカー)	伊藤 泰	拓殖大学政経学部非常勤講師
(2人)		
その他参加者	秋山 巧	東北学院大学教養学部研究生
(5人)	井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
	池田 紘一	長崎外国語大学学長
	岡野 薫	東北大大学院国際文化研究科博士後期過程
	秦 美枝子	東北学院大学教養学部聴講生

プログラム

12月19日（金）

14:30 研究会〔216会議室〕
話題提供者：亀本 洋
演題「法哲学と経済学について」

12月20日（土）

10:00 研究会〔216会議室〕
話題提供者：伊藤 泰
演題「ゲーム論からみた政治の環境」
12:30 昼食〔コミュニティホール〕
13:30 研究会〔216会議室〕
話題提供者：石川 文康
演題「Summa と System —カントの体系論に基づいて」

15：30～17：00

今後の研究会開催に関する打合せ

配布資料

資料紹介不可

国際高等研究所
研究プロジェクト「スンマとシステム」
2008年度第2回研究会（通算第3回）プログラム

開催日時：2009年3月5日（木）14:30～18:00
3月6日（金）10:00～17:00

開催場所：国際高等研究所 セミナー1（1F）

研究代表者：亀本 洋 国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
担当所長・副所長：北川 善太郎 副所長

出席者：（14人）

研究代表者	亀本 洋	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
参加研究者 (4人)	浅野 有紀 那須 耕介 平井 亮輔 平野 仁彦	近畿大学法科大学院教授 摂南大学法学部准教授 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授 立命館大学法学部教授
話題提供者 (ゲストスピーカー) (4人)	近藤 圭介 桜井 徹 高橋 文彦 竹下 賢	京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生 神戸大学大学院国際文化学研究科教授 明治学院大学法学部教授 関西大学法科大学院教授
その他参加者 (5人)	伊藤 泰 川瀬 貴之 佐橋 謙一 中林 良純 松尾 陽	拓殖大学政経学部非常勤講師 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学生 京都大学大学院法学研究科研究員

プログラム

3月5日（木）

14:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：桜井 徹

演題「いかなる生命観がリベラル優生主義を阻止するのか？」

3月6日（金）

10:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：高橋文彦

演題「法的思考の論理」

12:30 昼食〔コミュニティホール〕

13:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：近藤圭介

演題「法体系論をめぐる思考枠組みの本質とその射程

——ハンス・ケルゼンの議論を手がかりにして」

話題提供者：竹下 賢

演題「近藤報告へのコメント」

16:00～17:00 次回開催についての打ち合わせ等

配布資料

資料紹介不可

国際高等研究所
研究プロジェクト「スンマとシステム」
2009年度第1回研究会（通算第4回）プログラム

開催日時：2009年9月25日（金）14:00～18:00
9月26日（土）10:00～16:00

開催場所：国際高等研究所 セミナー1（1F）

研究代表者：亀本 洋 京都大学大学院法学研究科教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（13人）

研究代表者 **	亀本 洋	京都大学大学院法学研究科教授
参加研究者	田中 成明	国際高等研究所副所長／関西学院大学大学院司法研究科教授
(5人)		京都大学名誉教授
	那須 耕介	摂南大学法学部准教授
	服部 高宏	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	平野 仁彦	立命館大学法学部教授

**：スピーカー

話題提供者	鳥海 光弘	国際高等研究所企画委員／
(ゲストスピーカー)		東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
(3人)	手島 敦矢	国際高等研究所企画委員／同志社大学大学院神学研究科教授
	林 信夫	京都大学大学院法学研究科長・教授

その他参加者	佐橋 謙一	京都大学大学院法学研究科
(4人)	中林 良純	京都大学大学院法学研究科
	松尾 陽	京都大学大学院法学研究科助教
	近藤 圭介	京都大学大学院法学研究科博士後期課程

プログラム

9月25日（金）

14:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：鳥海光弘

演題：硬いサイエンスとやわらかいサイエンス

16:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：亀本 洋

演題：クーンの科学論と法哲学

18:00 終了

9月26日（土）

10:00 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：手島勲矢

演題：ユダヤ教の法概念

12:30 昼食〔コミュニティホール〕

13:30 研究会〔セミナー1〕

話題提供者：林 信夫

演題：古代・中世の著作物にみる「体系」

15:30 次回開催・研究会成果物についての打ち合わせ等

16:00 終了

配付資料（公開不可）

- ・亀本 洋「クーンの科学論と法哲学」
- ・手島勲矢「ユダヤ教の法概念」など
- ・林 信夫「古代・中世の著作物にみる「体系」」

国際高等研究所
研究プロジェクト「スンマとシステム」
2009年度第2回研究会（通算第5回）プログラム

開催日時：2010年1月8日（金）11：30～18：00
1月9日（土）10：30～12：30

開催場所：国際高等研究所 セミナー2（2F）

研究代表者：亀本 洋 国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（14人）

研究代表者 **	亀本 洋	京都大学大学院法学研究科教授
参加研究者 (7人)	浅野 有紀 田中 成明	近畿大学法科大学院教授 国際高等研究所副所長／関西学院大学大学院司法研究科教授 京都大学名誉教授
	中山 竜一	大阪大学大学院法学研究科教授
	那須 耕介	摂南大学法学部准教授
	服部 高宏	国際高等研究所企画委員／京都大学大学院法学研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
**	若松 良樹	成城大学法学部教授

**：スピーカー

話題提供者 山田 八千子 中央大学大学院法務研究科教授・弁護士
(ゲストスピーカー) 山本 顯治 神戸大学大学院法学研究科教授
(2人)

その他参加者 伊藤 泰 拓殖大学政経学部非常勤講師
(4人) 川瀬 貴之 京都大学大学院法学研究科博士後期課程
高橋 文彦 明治学院大学法学部教授
中林 良純 京都大学大学院法学研究科博士後期課程

プログラム

1月8日（金）

11：30 研究会〔セミナー2〕

話題提供者：山田八千子

演題「法科大学院における教育方法についての一考察」

13：00 昼食

14：00 研究会〔セミナー2〕

話題提供者：若松良樹

演題「パターナリズム再考」

15：30 〈休憩15分〉

15：45 研究会〔セミナー2〕

話題提供者：山本顯治

演題「行動経済学から見た投資家心理と勧誘行為の違法性評価」

1月9日（土）

10：30 研究会〔セミナー2〕

話題提供者：亀本 洋

演題「研究プロジェクトの総括／成果物について」

12：30 昼食

配付資料（公開不可）

- ・山田八千子「法科大学院における教育方法についての一考察」
- ・山田八千子「法曹養成と法哲学教育」
- ・若松良樹「パターナリズム再考」
- ・山本顯治「行動経済学から見た投資家心理と勧誘行為の違法性評価」